

第11話（7頁） ワーシャとこじき

ワーシャは4コペイカ*もっていました。お店にやってきて、白パンを買い、おつりを1コペイカもらいました。その帰り道です。

「キリストさまにおめぐみを」と、こじきが言いました。

ワーシャは白パンをあげるのをおいしい気がしました。ワーシャは1コペイカをあげました。あとになって、こじきがかawaiiそうになってきました。ワーシャは引き返して白パンをわたしました。

*コペイカ…ロシアのお金の単位

「なかなか奥の深い話だね。ワーシャは白パンを惜しみ、あとで後悔してやっぱり乞食に白パンをあげた。結局、4コペイカ全部を使い果たしたわけだ。」

「最初に乞食に白パンをあげていれば、手元に1コペイカは残ったし、あとまで自己嫌悪の気持ちを引きずることもなかった。」

「そのあたりを、どう考えるか。いったん、白パンをあげなかったのに、思い直して、白パンをあげるために乞食の方に引き返す。誰が考えても、立派というか、褒められることだよ。」

「これって、白パン一つが3コペイカ、なんだよね。いくつか買えたということじゃなくって。お釣りの1コペイカって、10円か50円ぐらいの印象なのかな。とにかく大したものは何も買えない。」

「ワーシャの、思い直して戻って来るときの気持ちを想像すると、読んでいても胸がどきどきしてくる。」

「全く見方を変えたら、算数の教材にもなるんじゃないか。設問は、持っていた4コペイカはどうなったか。いろいろ状況を変えてみて設問することもできるし…。」

「乞食をさげすむという、雰囲気は感じられないね。貧しい人、社会的な弱者、という目でトルストイは乞食を見ている気がする。」

「その乞食は戻ってきたワーシャを見てどう思ったのかな。」